特定非営利活動法人　呉こどもNPOセンターYYY　広報誌

2018. 7. 25発行　¥200

やもちき通信

182号

7月20日現在
子ども会員:171人
正　会　員:　36人
賛助会員:229人
32団体

夏休み 星空映画会

この度の、平成 30 年 7 月豪雨で被災された方々に、謹んでお見舞い申し上げます。このような中で、星空映画会を開催するかどうか、大変悩みました。

でもこんなときだからこそ、子どもたちに笑顔でいて欲しい、地域の皆さんに元気を出して欲しい!

そこで、YYY にできること…現在、無料で上映会をしています。今年は『忍たま乱太郎』。キャッチは「仲間といっしょなら勇気 200%」です。

集まった子どもたちの姿に、私たちスタッフも、たくさん元気をもらっています。　～YYY スタッフ一同～

みんな来てくれてありがとう!
子どもたちにとって少しでも
楽しい夏休みになりますように

がんばろう!!

しりたがり……2～3
おとな塾……4
田んぼでがんば/水龍のお蔵出し……5
特集わたしの平成 30 年 7 月豪雨……6～9
あなたがうまれるまで……10
舞台ウラはもっとゲキ的!?……11
東京オトナ LIFE/土曜夜市……12

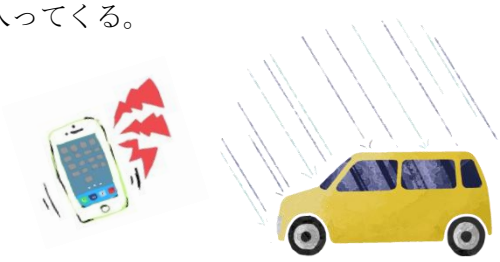
やまもとかずこの知りたがりやトーク

これまでの人生で、初めて経験した豪雨災害。

今回は、このことを記録にそして記憶にとどめておかなければと思ったので、体験した事実、感じたこと、考えたことを書くことにしました。

◇◆帰宅難民にー◆◇

6 日夕方、早く帰ろうと思いつつも、娘の仕事終わりを待ち、翌日の段取りをしていたら、結局、事務所を出たのは午後 7 時前。バイクで来ているスタッフを送り届け、一路、375 号を北上。すでに平谷線は通行止め、雨はどんどん強くなる。時折、避難指示を知らせる着信音がけたたましく鳴り響く。石内を過ぎたあたりで、対向車線は川状態。マジでヤバい！とにかく進むしかないけど渋滞は半端ない。その間にも黒瀬川が氾濫しそうとのメールが何度も入ってくる。



やっと、焼山方面に左折。やれやれと思ったのも束の間、総合スポーツセンターあたりで土砂崩れが。となると、黒瀬から熊野に抜けるか、広に戻るかしかない。でも、さっきの川のような道を引き返す勇気はない。それが幸いした。私たちが通ったしばらく後に崩れたらしい。再び 375 号を黒瀬にむけて車を走らせた。熊野別れまで何か所も冠水しているところを通った。裸足で歩いている人、膝くらいまで水に浸かっている人も見かけた。ブレーキが効かなくなったら？車が動かなくなったら？ハンドルを握る手に力が入る。熊野方面に曲がると、ゆめタウンの駐車場が目に入った。まるで池。停めてある車が 1/3 の高さまで水に浸かっていた。車はほとんど進まなくなった。事務所を出て 2 時間半、トイレに行きたい！近くのコンビニに立ち寄った。店員に道路状況を尋ねると何ヶ所か土砂崩れがあり、通行止めになっているとのこと。どうしよう？このままこの列に並ぶより、郷原まで戻った方が早く帰れるかも、と淡い期待を抱き引き返した。だが通行止めのままだった。雨は弱まってきたが、この暗闇の中、下手に動くのは危険すぎる、そう判断し、桑畑工業団地入り口付近のコンビニで一晩過ごす覚悟を決めた。

◇◆携帯が唯一の情報源◆◇

そうとなれば、飲み物、食べ物を確保しとかないと。こういう時の娘はフットワークが軽い。何度もトイレに行っては、あれこれ買ってきた。

ラッキーなことに、店の出入り口近くに駐車できていた。ラジオに耳を傾けながら、天気や道路状況をネットで検索。残りのガソリンは約半分。復旧にいつまでかかるかわからない。携帯の充電が 80%になったところで、窓を少しあけ、エンジンを止めた。当然、ラジオも途切れた。情報源は、呉市からの避難指示や通行止めを知らせるメールと FB に LINE。大阪に居る息子が、呉の友達から得た道路状況や断水になるらしいなど随時送ってきた。

日付が変わり 7 日の午前 2 時を過ぎた頃から、雨脚が再び激しくなった。雨粒が車をたたきつける轟音が怖かった。携帯を充電するために、エンジンをかけて窓を閉めた。涼しい～！娘は寝たり、携帯をつついたり、トイレに行って何か買ってきたりを繰り返していた。その間も猛烈な雨。私の方は、少し先の川が溢れでもしたら、高台に避難しなくてはと、一睡もできず。ネットで雨雲の動きを見ては、早くこの雨が通り過ぎますように！と祈るばかり。が、豪雨は思ったより長く、6 時頃まで続いた。

◇◆一夜明けて…◆◇

雨が小降りになり明るくなってくると、なんか口にしなければ、という気になった。店内に入ると、おにぎりやパン、弁当、お茶はもちろん売り切れており、カップ麺や菓子、ゼリーやカロリーメイトなども残り少なくなっていた。先が見えない不安から、みんなできるだけ食料を確保しておこうと思ったのだろう。チョコレートとやや甘めの天然水だけ買って車に戻った。

7 時を過ぎた頃、YYY スタッフから「うちで休んで！」とか「お風呂使って！」などの有り難い連絡が。どうやら娘がこの状況を発信していたらしい。でも残念ながらまだどのルートも通れない。しばらくして、どうにも暑いのと、携帯の電池が 50%をきり、心細くなったので、ちょっとだけエンジンをかけることに。すると、「もったいないけぇ、かけん

でいい」と娘。えーっ！私たちがいたコンビニは、イートインスペースがあり、携帯が充電できるコンセントや USB コネクタが数か所設置してあった。でもあいにく、車に Android 用のケーブルはのせてない。あきらめようと思ったら、隣の車の人がケーブルを持っていることに気付いた娘が、借りてきてくれた。無事に店内にて充電。貸してくれたのは、彼女の小・中時代の同級生のお姉ちゃんだった。こんな時、知り合いに出会うと心強い。時間が経つにつれ、他にも知人が数人、一緒に難民になっていることがわかった。大変な中にあっても、そこはコミュニティ、互いの近況を報告しあう場面も。その間も、苗代方面に向かっては引き返してくる車が後を絶たない。まだまだ通れそうにない。

◇◆通行止め解消の見通しがたたない◆◇

8 時過ぎるのを待って、知り合いの土木関係者や消防職員に連絡をとってみた。大変なことになっているのは分かっていた。人命救助が優先されるだろう。当然そうあるべき。でも、ここにも身動きのとれない人が大勢いる。コンビニの飲食物にも限りがある。早急にどれかのルートは通れるようにするはず。しかし、土木関係者から返ってきたのは、呉市のいたるところが崩れていて、どこから、何から手をつけるのか、まだ方針が定まってない、あたふたしている役所の様子。消防も困っていて、できるだけ早くスポーツセンター前を通れるようにと要請は出しているが、との返答。長期戦になりそう、ため息が出た。

9 時前にやっと雨があがった。

コンビニの前を大きな重機やユンボが通ったのは、10 時をまわった頃だった。やったあ！遅くとも夕方には通れるようになる！帰れる！そう思った。しかし、お昼を過ぎ、2 時を過ぎ、とうとう 3 時を過ぎても苗代方面に向かう車は、相変わらず引き返してきた。息子からは引き続き、付近の道路状況などが送られてきていた。娘は、たまたまそのコンビニでアルバイトをしていた同級生と、崩れたあたりや 375 号沿いの様子を偵察に行っては、状況を教えてくれた。数日後、思っていた以上の広範囲で崩れていることを知った。

午後 4 時、また小雨が降り始めた。焼山まではほんの数 km なのに…。終に車をおいて歩いて帰る人も出てきた。土砂崩れがあったスポーツセンター前は、U 字型の急な下り上りになっている、通称ジェットコースターと呼ばれている道路で、崩れているだけでなく、その時点でも膝上くらいまで冠水している様子だった。彼らは泥水の中を歩くことに決めたのだ。娘もそうする？と軽く言ったけれど、家に帰っても、車がないとどうにもならんだろう！ってことが容易に想像できた。

◇◆知り合いに助けられ…◆◇

もう 1 泊することを覚悟していたら、またまた見知った顔が。お世話になってる車屋さん。「もうちょっとしたら、これで帰ろうと思う」と“通れる道マップ”というアプリを見せてくれた。今なら、こんなんあるんじゃ、へ～！だけど、その時は、危ないかもしれんけど、ついて帰ろう！前日の豪雨の中を運転するよりはずっとマシ、本当にそう思った。

豪雨の爪痕が半端ない道を、そのアプリに沿って走る車の後を、必死に追いかけた。隣で、娘が周りの状況の悲惨さに感嘆の声をあげていたけれど、私は殆ど、前の車しか見てなかった。途中、西条のガソリンスタンドで給油することができた。娘はそれだけで、安心できたと嬉しそうに言った。ガソリンが半分しかなかったことは、彼女にとって大きなストレスだったようだ。八本松から阿戸に抜け、熊野を通り、無事、焼山に。前日、冠水している写真が送られてきた付近を通った。第 3 団地の入り口あたりも土砂が流れ込んだ様子。とにかく、家に帰れた。たった 1 日、それでも長いと感じた。

って言うのが、大まかに、今回私が体験したことです。その中で、嬉しかったことがいくつかあります。前述したように、そこはコンビニ難民というコミュニティ、話しかけたり・かけられたり、自然な形で連帯感が生まれ、互いに譲り合ったり、若い人たちはドロドロになりながら土砂崩れの現場を手伝ったりしていました(^^) 大変でしたが、貴重な経験でした。

今後ですが、大したお金も出されんし、力もない私たち YYY。出せるのは元気！できる事は元気を伝播させていくこと。心が元気じゃないと、先の事や他人の事、ポジティブに考えることはできません。そこで YYY は、みんなの心が元気になって、また明日から頑張ろう！って意欲につながるような楽しいことをたくさんやっていこう！改めてそう思ってます。

7月3日(火)YYY事務所 参加者14名

オトナがあそぶ
あなろぐげいむ

講師：大石裕太さん（遊び人）

台風の中、大きなスーツケースを持って自称“遊び人”のその人はやって来た。
でも仕事帰りでネクタイ締めてる(笑)
「遊び人って言うと評判悪いんですよね！」と言いながら礼儀正しくお話される。アナログゲームが好き過ぎて、自分で作っちゃった達人、大石裕太さん。今回は、今ひそかなブームを迎えているアナログゲームをとことん楽しんだ。

そのスーツケースの中に、厳選されたアナログゲームがたくさん！自分の子どもが大きくなった今、本当に久しぶりにゲームの蓋をあけるドキドキ感を味わう。「ゲームは見た目も大事」と大石さん。確かに、木製のおしゃれなデザインや、カラフルなパーツを見ると気持ちがあがる(笑)

もともとアナログゲームは、ドイツで作られたものが多く、その数は年間 800 種程。それに比べて日本はテレビゲームが主流で、アナログゲームは年間 10 種ほどしか発売されなかったそうだ。それが近年、大石さんのように、同人(アナログゲームが好きな人たち)が自主出版して、どんどん新発売されるようになっている。

アナログゲームの楽しさは、①運②記憶力③戦略にあると大石さん。中には力を合わせて全員が成功するか、失敗するかを楽しむ協力ゲームもあるのだとか。思った以上にいろんなバリエーションがあるんだ～！とちょっと感心！！

大石さんがアナログゲームを作り始めたのはおよそ 10 年前。子どもの頃から双六の魅力にはまり、段ボール等で作って遊んでいたそうだ。ご自分で製作、商品化されたゲームもお持ちいただいたが、思った以上にたくさん！この人、只者ではない…。

ゲームを作るきっかけは人との出会い。デザインに長けている人、100 均の商品を上手に加工できる人など、“たまたま”出会った志が同じ人と意気投合して製作した作品が売れ、再度バージョンアップしてまた商品になった物もある。商品化というと大事業と思うが、この大石さん、「たまたまこういう人がいて…。」とさらりと話す。いい出会いがあり、なんとなくやっちゃった感がにくいっ！

それにこの大石さん、「ポッキーゲームは、自分にとってはゲームじゃない。じゃあどうしたらゲームになるかなぁと思って、ハブを真っ直ぐ描いて、左右からマングースが食べていく双六にした。」との言葉どおり、日常のあらゆる事がゲームにならないか常に考えている様子。根っから好きなんだなぁと感じる。それは最上級の幸せかも…。

実際、グループに分かれてゲームをやってみた。おとなが必死で夢中になる。笑い声があちこちから聞こえる。私は『おばけキャッチ』が楽しかったな！とにかく頭を使う！最近は介護の世界でもゲームが見直されていると聞くが、本当に頭の体操になる！今まで遊ぶ事はあってもゲームを創るという視点はなかった。こんな仕組みを考えられるなんて！恐るべし「遊び人」！その奥は深かった。(笑)

(山本さなえ)

Nextおとな塾

抱腹絶倒！！ビックリ仰天！！

ニカラグアから帰国したあやしいおとなのその後…!?

講師
(株)UNICA 代表取締・相談支援専門員
スクールソーシャルワーカー・成年後見人
出崎 直美

抱腹絶倒だった「ニカラグアからぽでーるまで」の出崎さんが再び登場！

ニカラグア帰国後のことをお話しいただきます。元気が出ること間違いなし！あやしいおとなって何！？と思ったあなた、事務所へ GO！

【日　時】8 月 21 日(火)19:30～21:00
【場　所】YYY 事務所
【参加費】1200 円(資料・おやつ付)

田んぼでがんぼ

山は山の時間軸で動く

皆さん、こんにちは！5 年ほど前から呉市のお隣の黒瀬町で「黒瀬みのり農園」をスタートさせた週末ファーマーの町田です。

先日の豪雨、本当にひどかったですね。

かく言う我が農園も被災してしまいました…。裏山が大小複数にわたって土砂崩れを起こし、その大量の土砂が田んぼや家の周りに流入しました。（「爪あと」とはよく言ったものですね。豪雨の後の山は、何かとてつもなく大きな獣に引っ掻かれたような有り様です。）

せっかく大勢の方と一緒に田植えした 5 枚の田んぼのうち、2 枚は完全に土砂に埋まってしまい稲の姿はなし。残りの 3 枚にも泥や土砂、木切れなどが流入し、稲への悪影響も必至という状況です。

突然ですが皆さんは、かこさとしさんの『あるくやま　うごくやま』という絵本をご存知ですか？娘たちが小さかった頃に何度も読んで聞かせた懐かしい絵本のひとつなのですが、今回農園が被災して頭に浮かんだのがこの絵本です。この絵本の中では、山は山の時間軸で、大きくなったり移動したり、まるで生き物のように動くのだと教えてくれます。

ヒトはついヒトの時間軸だけで物事を考えがちで、山が動くなんて考えてもみないですが、それは大きな間違いなのだと今回の災害で痛感させられました。物事の本質を正しく捉えることって、なんて難しいんでしょう！自分が当たり前だと思って（しまって）いることの中に、実は多くの誤りや見落としがあることを肝に銘じよう！と思った次第です。

稲が生き残った田んぼの稲刈りが、秋ににぎやかにできるように、復旧作業を少しずつ進めています！

水龍の★お蔵出し！

あの晩『また大雨か。道路が冠水して、梅雨には時々あること』と高を括っていました。侮っていたと気付いたのは、帰社して川を覗いた時でした。

弊蔵は、敷地内を川が流れています。(酒蔵は昔から精米の為に水車を使っていたので、ほとんどの蔵は川に併設されている) 両側の岸は、4m ほどの高い石垣になっており、平素は 5cm くらいの水深で、夏には所々干上がって地が出ているほどの川。この石垣は大袈裟だと常日頃思っていました。それが、狂ったような土砂の荒波を吹き上げながら、あと数 cm で石垣を越えようとしているところでした。

生まれてこのかた見たことのない、恐ろしい川の姿。怖々の夜が明けると　惨憺たる状況の中、間もなく断水の生活が始まりました。

幸い、川は溢れることなく、また蔵には井戸があり、ポンプは稼働したので、地域に開放したり、特に水の必要な施設には 直接ホースをつないで対応しました。

何も出来ない、生活と命を繋ぐことで必死の日々。同じ町内でも、一区画違っただけで、甚大な被害の場所もあり、手伝いに通うが、自分が熱中症で倒れそうになるので、それすら慎重になります。年配の方々は口々に『昭和 20 年の水害を思い出す』。話を聞いていくと、いろいろ合点がいきます。

先人達は、次の世代の為に予防線を張って、予告して、後世に伝えていることを重々感じました。それでも時代と共に忘れられ、儲けに流され、人は無関心に建物を増やしてきたのです。

まだまだ体育館での生活を強いられている方々も多く、ライフラインが一つ欠けるだけで、本当に苦しい現代社会の生活。人との繋がりが、気持ちの支えになります。

平凡な日常が、とても有り難く思えます。人の心は弱いもの、喉元過ぎれば、にならないように、心がけて生きたいものです。早く被災された方々の日常が戻りますように。

わたしの　平成30年7月豪雨

この度の災害で、YYY には、忍者の北さん、ワンツーワークスの奥村さん、ひつじのカンパニーの皆さん、くわえ・ぱぺっとステージのつげさん、Rue de Valse のタケさん、THE NEWSPAPER のヒデさん、他にも各方面、色んな方から心配と応援の声をいただきました。ありがとうございます。
今月は、あの時、あの後、どんな体験をし、どんなことを思ったか、身近な人たちの声を集めました。

あやか(広島市西区)より

■川のような道路を家へー

6 日。18 時半頃に焼山の仕事場を出て、西区の家に向かって車で帰った。雨すごいなーって思いながら矢野に向かって下りていたら、道路がだんだん川の様に。タイヤが見えんくなるくらいまで浸って、実家の家族ラインに、こんなんじゃけど〜って写真を送りながら走った。

母さんから実家に帰ってくるか、近くの人に泊めてもらいんさいってラインをもらっとったけど、引き返すのたいぎかったけん、そのまま帰るわーって言った。それが間違いだった…。

焼山から下りて 31 号線に合流する前の高架下は、19 時頃には冠水して通れんかったけん右折して、いつもとは違う道へ。混んでいて、水に浸かった状態で少しずつしか進めなくなった。前の車が進んだけん、アクセルを踏んだ。けど、全然動かんくて、えっどして？って下を見たら足元が濡れていた。

やばい！と思ってアクセル思いっきり踏んだけどダメで、どうしようと思っていたら車がグワングワン揺れた。後ろを見たら近所の人がずぶ濡れになりながら、車を押してくれていた。外に出たら膝上まで水があった。何人か近所の人が来て、水に浸ってない近くの駐車場まで押してくれた。もう車ダメかと思ったけど、エンジンがかかって一安心！

■何が起こったかわからず…

実家と旦那と相談して、呉の実家に帰ることにした。海田は雨すごいなーと思いながら運転しているとザバーンっていって車が動かなくなった。一瞬何が起こったかわからんかったけど、車がプカプカ浮いてた。アクセルを踏んでもどうにもならんくて、車がピーピー鳴っていた。だんだん中に水が入ってきて、パニックで父さんに電話をかけたら、「ドア開けんさい！」って言われた。けど水圧で全然開かんかった。その間も水はどんどん入ってきて、このままじゃ死んでしまう、ここで死ぬんかなと思った。「窓開けて出え！」って言われて、急いで窓を開けてカバン持って外に出た。泳がんと！と思ってカバンを浮き輪にして足をバタバタしたが、ふと冷静になって足を下におろしたらつくじゃん！

そのまま水の中を歩いて、道路まで出たら丁度救急の人が来た。会う人全員に「大丈夫ですか、一人ですか！？」と聞かれた。そこ大事だよなと思いながら救急の人の話を聞いた。「迎えに来てもらうか近くの小学校に避難して下さい」と言われたので道を教えてもらって避難することにした。全身べちゃべちゃで、靴も片方しか履いてなくて、怖かったな、なんか惨めだな〜と思いながら、小学校を探した。

通りすがりのお兄さんに道を聞いたら、優しく教えてくれて、傘をくれた。「もうずぶ濡れなんで大丈夫ですよ」って言ったけど「俺、すぐそこじゃけん、使って」って渡された。ありがたく受け取って、教えてもらった道を歩きながら少し泣きそうになった。弱っとる時に優しくされたらいかんな。

■避難所へ

小学校には結構な人が避難していた。地域の人が毛布と下に敷くマットをくれて、あまりに濡れとるけん、みんなとは別の 2 階の教室に案内してくれた。服、カバンの中身など全部絞ってくれて、風邪ひいたらいけんって、毛布を追加で持ってきてくれた。ビスコもくれた。水はみんな水道水を飲んでいた。

あちこち連絡をとって、次の日も仕事じゃけん、タクシーおったら焼山まで帰れるかなって話になった。けど、どこもやってなかった。確かにこの状況じゃやってないよね！

とりあえず、小学校で 1 泊する事にした。服がだいぶ乾いて、みんなのいる 3 階の教室で寝た。教室の窓は開いとって、雨の音と消防や救急のサイレンがずっと鳴っていてあまり寝れんかった。

■残っていたおばあちゃんと

7 日、朝起きたら菓子パンとお茶をくれた。だいぶ天気が落ち着いたけんってほとんどの人が帰ってしまった。教室に自分以外いなくなったので、教室を移動した。そこにはおばあちゃんが 1 人おった。残っとるの 1 人じゃなくてよかったですわーなんて言いながらゆっくり過ごした。服は乾いたが、臭いがすごかったのと、靴が片方しかなかったから、近くにお店はないか聞いたら、おばあちゃんが地図を書いてくれた。さらに「私の長靴履いていきんさい」って、足が悪いのにわざわざ 1 階まで降りて長靴を貸してくれた。古着屋さんでジャージ、コンビニで身体拭くやつと充電器を買った。コンビニにはびっくりするくらい物がなかった。

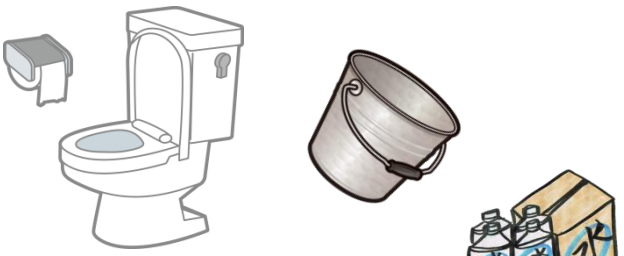
お昼は役所の人がお弁当買ってきてくれて、おばあちゃんと食べた。

それから、おばあちゃんの娘さんの話なんかを聞いたりした。この学校は教室にクーラーがついとって「寒いじゃろ、着んさい」って、ちょっと前に亡くなったお姉さんの形見のシャツをくれた。それは悪いんで断ったら、いっぱいあるけん大丈夫と言ってくれた。

タクシーがつかまるかもって話を役所の人から聞いて、15 時半頃、電話したらタクシーつかまった！これで家に帰れる！おばあちゃんに帰ることを伝えたら、喜んでくれた。お別れする時、「あなたがおってくれてよかったわ、気をつけてね、ありがとうね」って、おばあちゃん泣きそうだった。こっちまで泣きそうになった。タクシーで家にむかった。広島市内はいつも通りでなんか別世界に感じた。無事家に着いて、テレビを見たらびっくり！昨日通った矢野東が土砂で凄いことになっていた。あと 40 分遅かったらあれに巻き込まれとったな…。

死ぬかと思ったけど、命があって、優しい人達に出会えて自分は恵まれとるなぁと思った。

自分も人に優しくせんといけんな〜。



和馬(呉本通り)より

ぼくは天応にボランティアに行った。

自分が住んでいる地域は幸いに土砂崩れも断水もなく、天応に行くまで被害の状況が全くわからなかった。9 時に市役所に着いて送迎バスを待ち、結局天応に着いたのは 12 時半すぎ。担当した場所は、通りが細く、高齢の方が多く住む地域で、あまり作業が進んでない様子だった。ぼくがした事は、浸水した家の中の使いようのなくなったものを空き地に運ぶ作業だった。厚い本や畳、洗濯機など、高齢の方では運ぶことが難しそうなものを中心に運んだ。作業が一段落し、状況を見て回ると、ここの地域がどれだけの被害を受けたかが一目でわかった。玄関にできた一本の泥の線。ここまで水が押しよせてきたのだろうとわかる線が地面から 50 センチほどの高さにあった。

自然災害はいつ起こるかわからないし、多くの被害を一瞬にして生むことを知り、とても怖いものだと再認識できた。これからも、小さいながらも、自分ができることは、していきたい。

あかり(呉宮原)より

私の住む宮原では、所々で土砂崩れは起こったものの、大きな被害はありませんでした。ただ、豪雨の影響で断水が続きました。最も困ったことはトイレです。レバーをひねっても流れないトイレがどんなに頼りなく見えたかは言うまでもありません。トイレに水を流すべく、山の湧水をとって来ようと坂を登りましたが、道が土砂や倒木で塞がれて辿り着くことができませんでした。途方に暮れていると、バケツを持ったお婆さんがやってきて塞がった道の手前の側溝から溢れる水を汲ませてくれました。お婆さんの心の温かさを感じて、とても素敵な体験をした、と思いました。

水汲みに行く度に宮原の自然や人々の温かさを感じ、私はいつしか水汲みを楽しむようになっていました。水の大切さはもちろんのこと、この災害は私にふるさとの魅力をも教えてくれたのです。

しるこ(呉辰川)より

●娘は無事でよかった！ けれど…

娘が無事だったことに涙した雨の夜(詳しくは“あやか”の記事をご覧ください)から一晩明けて、7 日。前日の雨が嘘のようにいい天気！娘が避難所から西区の家に無事帰ったとの連絡を受け、安堵していると、下の娘が「母さん、断水するかもって書いてあるよ」とツイッターを見せてくれた。ホントかどうか？だけど、備えあれば！と、お風呂、ヤカンや鍋など至るものに水を溜めた。その時は普通に出ていたけれど、翌朝起きたら一滴も出てこなかった。

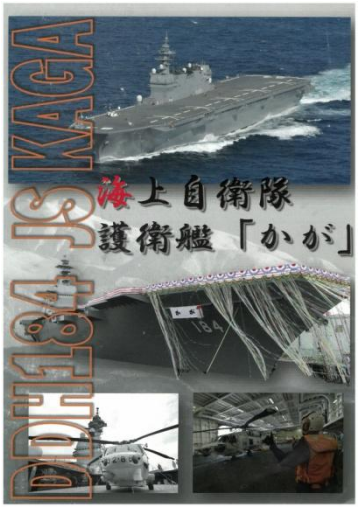
備えてて良かったぁ！当面はしのげるかな？と思ったが、そう甘くはなかった…。飲み水を買っておこう！とスーパーに行ってみると、なんと水もパンも冷凍食品もカップ麺も棚から姿を消していた…。まとめ買いしていたレトルトカレーや即席味噌汁、冷凍ご飯でなんとかなったが、それも底をつく。ＹＹＹの事務所と勤め先の保育園は水が出るらしい。飲み水を分けてもらったり、お米を研がせてもらったりした。ガソリンもレギュラーはもうなくて、ハイオクでもいいですか？と 20 リットルだけ入れてくれた。なんて事！小高い所に家があるので、給水も車が必要。運転は必要最低限に！を心がけた。

●洗濯と入浴を求めて

給水場所の学校は、長い列ができている。近所の公園で水が出ていて、そこで汲んでいる人を見かけ、生活用水はそこで汲むことにした。

夏の断水は、大変困る。タオルを沢山使い、シャツや下着も溜まってくる。シャワーも使いたい。しかし、水が出るコインランドリーには、人が殺到！5 時間以上待った人も…。お風呂は、市内の銭湯がやっていたので、数日通う。1 人 430 円の銭湯代を家族分×日数ですると、結構家計に響いた。洗濯も時間とお金がかかる。

すると、また娘が「海上自衛隊の船で、お風呂と洗濯できるらしいよ。行った人が詳しく場所や様子を、ツイッターで書いとる！」入浴支援のことは知っていたが、どうやって行ったらいいの？？だったので、とてもありがたかった。投稿通り、IHI の横の坂を降りてカーブしたすぐの所に「入浴支援受付」との看板が出ていた。呉方面から行ったら右折禁止なので、からすこじまのセブンで方向転換した。自衛官の誘導に従い駐車。受付で手荷物検査を受け、パイプ椅子が並ぶ待合場所に案内された。船まではバスで輸送してくれるらしい。座って待つことができ、扇風機も回してくれていた。心を和ませる為？音楽隊の方が、演奏をしてくれていた。マイクロバスに乗り込むと、男性用の「さざなみ」と女性用の「加賀」という船まで送ってくれた。(バスは陸と桟橋をつなぐ橋の出入り口で必ず斜めに入って斜めに出るのに気がついた。つなぎ目でガタンとならないようになのかな？)「加賀」は一番大きな船で、男性と女性の待ち合わせ場所にもなっていた。諸注意を聞き、艦内に入る。案内されて階段を降りると、通路にそって部屋を区切る枠があり、それを何個か通り抜けると脱衣所とシャワーと浴槽のある部屋に着いた。こんな部屋がいっぱいあるようだ。脱衣所にも洗濯機があるのだけれど、入浴しながらの洗濯は時間がかかるので、別の所でするように、と諸注意で言われていた。入浴を済ませると、洗濯をする人は洗濯の順番待ちの部屋へ、入浴だけの人は休憩待合場所もしくは、バス待合場所に案内される。洗濯の順番待ちの部屋では、テレビが置いてありお水が飲めるように準備がされていた。一部屋に洗濯機が 8 台くらいあり、空くと呼んでくれる。我が家は、洗濯物が多すぎて 2 台お借りして洗濯した。終わると、バス待合まで go！帰りは駐車場まで送ってくれた。給水場所もあり、お水ももらい、いたれりつくせりでした。ありがとう！



職場の保育園と ＹＹＹ事務所にも感謝です。

断水になって、気づいたこと…

・水を入れる物がない!ペットボトルでは間に合わない。空いた灯油のポリタンクをトイレ用に使用。大きなポリタンクは、重くて持ち運びが容易でない。トイレって、結構水がいるいる。6 リットル以上も(何回か溜めて流すとかの努力もしました。)

・食器は洗剤で洗うと、結構水がいる。(お皿にサランラップ巻いて使用するなどしました。)

・このご時世、SNS が役に立つ。現代っ子の娘と、つぶやいてくれた若者達に感謝です。

かのん(呉晴海)より

6日の私は、学校の規準ギリギリのラインで学校へ行きましたが、すぐに帰らされました。「いつもの梅雨時期のやつ！休みだラッキー！」とルンルン、友人とおしゃべりしながら帰りました。だけど夜が明けてニュースをつけると、知っている道が「ここどこ？」と分からなくなるくらいに土石流で流れてしまっていたり、色んな報道にとても混乱しました。さらに突然の断水。水が出ない…。

そこから、給水や知り合いに頼る節水生活が始まりました。お風呂の水は思ったより使わず済むけど、トイレの消費量の多さには驚愕しました。洗濯物は、コインランドリーがディズニーランドのアトラクション並みの待ち時間だから、母さんと2人で何とか1枚ずつ手洗いしていました。いつもより、会話が出来たので、それはそれで良い時間でした。

そんな大変な中でも、世の中のほとんどの大人たちは仕事へ。私の両親も、時間を早めて家を出ています。大人たちはカッコいいなぁと改めて思いました。私も何か力になりたかったので、断水中は給水の手伝いをしました。日差しの強い中、長時間並ぶ…という状況のためか、あるおじいさんが「もういい！こんな思いするくらいなら死んだ方がマシだ！」と取り乱していました。なんだこの人は、と思ったのが正直なとこ。本当は死にたいと思って無いことはわかっていますが、水は待てば必ず来るけど、失った命は絶対に帰ってこない。何が大切なものなのか、身をもって今回感じられました。

れな(江田島)より

江田島の私の家は、朝起きると川の氾濫で周りが水でタプタプになっていました。どうにか床下浸水で水は引きましたが、島のあちこちで土砂崩れがあり道路が通行止めになりました。橋も通れなくなり、町から出ることができなくなりました。停電や、断水にも困りました。水を求めて行ったスーパーはどこも物資が入って来ないのでほとんど空っぽになっていました。

「いつもみたいに何もないだろう」と災害が起きる前は思っていました。今回は運よく自分達に大きな被害がなかったというだけで、その考えがどれほど怖いことか、実感しています。

私は家での仕事がひと段落してから、江田島と呉のボランティアに行きました。江田島は人手不足で、センターは大変そうでした。行った先は、床上浸水で壁も床も使えなくなっていました。私達はそこら中に散らかった土を土嚢に詰めたりしました。

呉ではボランティアの人数に驚ました。行った所では、家の周りに大量の土砂が積もり、畑と道の境目の柵が見えなくなっていました。スコップで、ひたすらかき出しました。

猛暑の中での作業は精神的にも肉体的にもとても辛いものがありました。でも、帰る時に家の人が並んで「ありがとう」と多くの感謝の言葉をくれて、とても嬉しく、来てよかったなと。『こんな状況だからこそ元気や笑顔、感謝が支えになるなぁ』と思いました。

長田さん(吉浦)より

半世紀生きてきて初めての大災害！でもね、断水が、あたしの心を癒してくれて。というか、断水からのみんなの優しさにね。

県外の友人という友人から連絡がきたよ。「必要なものはない？」って。断水じゃない友人達からも「水汲みにおいで！」「洗濯しにおいで！」って。お水はね、家の前にね山水が下りてくるんよ。それをトイレ用の水に使おう！と近所の子ども達集めてお願いしたら、あっという間に60リットルのタンクにいっぱい！「明日も集めるね！」って。

みんなありがとう！

(タイムラインより一部抜粋)

子ども達の笑顔に被災者も笑みが戻り、子ども達の頑張りに大人も前に進むことに気づいた感じです。

あなたがうまれるまで

9／14（金）18:30〜
ビューポートくれ大会議室
9／15（土）14:00〜
呉市立白岳小学校体育館
※各会場開演は 15 分前

人形芝居『あなたうまれるまで』は、10 年ぶりの公演(2002 年、2009 年と今まで 2 度上演)です。YYY にとっていつも感動を与えてくれるみんなに観て貰いたい大事な作品です。なんと YYY は只今、ベビーラッシュです。これは『あなうま』やるしかないでしょう！の勢いで公演決定です。

私の話ですが…26 年前、結婚 5 年目不妊治療 2 年を経て妊娠。これで「赤ちゃんまだ？」の呪縛と月の半分を占めていた病院通いから解放された喜びでいっぱいでした。生まれたらできなくなると思い込み、美味しいものを食べ歩きしていました。そして娘の誕生。いざスタートした子育ては、楽しいこともたくさんあるけれど、時にはイライラ、腹をたてたことも度々ありました。口応えするのも成長している証拠と自分にいいきかせ、子どもと一緒に親として育ってきたように思います。

この作品の中で印象的だったのは「ぼくうまれていいの？ぼく生まれる！」と言って赤ちゃんが産道を出てくるシーン。主役はキミだ！まさに生まれてくる赤ちゃんが主役のお芝居なのです。我が子はもちろん、私もこうして生まれてきたんだなと思うと、生まれた瞬間の場面では、ジーンとあったかい気持ちでいっぱいになりました。子どもの虐待や悲しいニュースを聞くたびに、「なんで？どうして？たった一つの命なのに」と、思います。

お父さん、お母さんには生まれるまでの待ちどおしかった時間や生まれたときの感動を思い出して欲しい。子どもたちには自分ががんばって生まれてきたことや望まれて生まれてきたことを、知ってほしい作品です。YYY ではお馴染みのつげくわえさんと北村直樹さんの人形劇です。ぜひ周りの大人・子どもを誘って会場に足を運んでください。(福田)

同時上演

「きらいきらい、ちょっとスキ！」
おおらか、おおざっぱなつげくわえと、
こまかく、こまやかな北村直樹の
二人がおくるゆかいなパペットショー！

～お見舞い申し上げます～

★呉も大変な状態だとニュースで知り、YYY に連絡しました。「大変だけど、頑張る！」「ピンチをチャンスに！」「つげさん達から学んだこと」だって。いやいや、『ぼくピンチなんです！』のテーマではありますが、ちょっと恥ずかしいです。逆に励まされました。ありがとう。そして、まだまだ大変でしょうが、頑張ってください。(つげくわえ)

★酷暑の中、まだまだ大変な毎日だと思いますが、皆様がんばってください。
(北村直樹)

＊出演のお 2 人からメッセージいただきました。がんばりましょう。

空@空☆ガ。の

舞台ウラはもっとゲキ的！？

～身近なものから遠くのものまで、ゲキ(劇)的な情報を毎月お届けシマス!!～

心強かったグループLINE

豪雨の夜が明けた 7 日から、住んでいる地域は 1 週間ほど断水になりました。最初は、せっかくじゃけ人生初の給水行っとこう、とちょっとワクワクしたぐらい。東日本大震災の時に、様々な防災情報が広まりましたよね。その中で覚えていた給水方法を実践してみようと、ガラガラにダンボール箱を乗せてごみ袋 2 重にかけて給水行ったりしました。職員さんに「いいアイディアですね～」とか言われて、まだ初日はそんな感じでした。

翌 8 日の朝、突然携帯の電波がなくなります。6 日の夜から、情報収集のために Facebook をずっと見てたこともあり(特に夫の会社が小屋浦で、状況を知るためにずっと検索してた)、電波がないのはかなり心細かった。幸い、前日に、各キャリアが災害時無料 Wi-Fi を開放した、という情報をゲットしていたので、すぐにコンビニに向かい(セブン・ローソン・ファミマにはキャリアの Wi-Fi がある)、実家や友だちと連絡を取り合いました。

その時には断水が 2~3 週間続くかも、との情報が入っており、わが家は乳児もいるし、お嬢が熱を出してたので、断水していなかった夫の実家に避難。

避難後、この春卒園した坊ちゃまのクラス LINE へ、余計なお世話かな～とも思ったけど、役に立つこともあるかもしれん、と集めた情報を掲載。すると、他の人も、ここは井戸水が出る、ここはお風呂に入れる、あそこは行ってみたけど人が多すぎてダメ、など次々流してくれました。それから断水が解消するまでずっと、頻繁に情報交換。通れる道路、給油できたスタンドなど、実際行ってみた情報をもらったり。出身が遠方で土地勘のない人に、自衛隊の入浴支援への行き方を説明したり。

困ったことに、8 日以降、学校からのメールが Gmail の人に届かなくなりましたが(現在もです)、それも届いてた人が載せてくれて、登校日も知ることができました。

その後、みんな何食べてる？と誰かが聞くと、グリルにホイル敷いて肉を焼く、ラップを敷いた皿に冷凍野菜と卵入れてチンする、昼に素麺した出汁で夜味噌汁、とか色々アイディアが。災害時に作れるレシピサイトの紹介も。

久々の登校日には、子どもたちが通っている小学校がテレビで中継されて、同じ幼稚園だった子がしゃべっているのが映り、盛り上がったり。

段々、節水慣れてきたとか、昼にベランダであったためた水を浴びたとか、キャンプ状態でこれを楽しむ気になってきたとか、前向きになり。断水解消の話も、早くなるとかもっと遅いとか、情報が錯そうしたけど、みんなで一喜一憂しながら、もうちょいがんばろう、って励まし合いました。

水が出るようになった時、「ここの LINE があってよかった」とみんなが言っていて、ほんまよかった、と衣装作ったり飲み会したり DVD 作ったりしたことを思い返しました(笑) 後になって気づいたのは、LINE やってない人が何人かおったこと。気が急いていて、連絡してなかった！SNS が本当に役立ったことを実感したと同時に、やってない人のことも忘れたらいけんなと思った断水でした。

その後、一番気になったニュースは、岡山県倉敷市に、乳児用液体ミルクが支援物資として送られたこと！

「液体ミルク夏にも解禁の見通し」と言われてますが、実際に販売されるまで 2 年かかるとか…。それじゃ関係ないかな～と思ってましたが、関係あった！断水の時、液体ミルクがあったら…！うちは完ミというやつですが、普段が母乳の人だって、出なくなることもあります。みんな備えは欲しいはず。呉だけでも一足先に解禁になりませんかね(笑)

きょうこの東京オトナLIFE ライフvol.6

～被災した故郷へ～

今回の西日本豪雨では、遠い東京から、全国ニュースに映る故郷に、日々胸を痛めていました。

みんなは無事か。みんなの家は、家族は、大丈夫か。でも、こんな大変な時に連絡したら迷惑じゃないかな…

何もできない無力さを、こんなに感じたことはありませんでした。近くに居られれば、ボランティアでも掃除でも出来ただろうに。悔しかったです。

東京では、数日間、朝のニュースの数十分が、西日本豪雨に割かれました。でも、私にとっては大切な故郷の一大事。数分間のニュースではあまり伝わってこなくて、お昼休みになるとインターネットやTwitter で被害状況などを調べました。その時は、会社の中で私にだけ日常が来ていないんじゃないかと思って、怖かったです。

でも、いつまでもクヨクヨしてはいられない。遠くにいても何か出来ることはないかと思って、人生はじめての「ふるさと納税」をしました。ボーナスが出た直後だったし、育ての街へのささやかな恩返しの気持ちでした。

今回は大規模な災害だった為、被害の大きい自治体を選んで返礼品なしの納税ができる特設サイトができていて、私はそこから寄付をしました。同時期、ネット上では呉の返礼品の「セーラーショルダーバッグ」がかわいいと話題になっていましたね。形はどうであれ、呉が注目を集めて、たくさん支援していただけることは、良いことだと私は思います。

お盆はお正月ぶりに帰省します。自分の目で呉の現状を見て、画面からは伝わらないことを感じたいと思います。

こんな時だからこそ 土曜夜市

数々のイベントが中止になるなか、呉のれんが通りでも、恒例の土曜夜市が開催されました。微力ながら今年も司会をやらせてもらったよ(*^^)v 中国新聞に、商店街の方の記事があり、「大変な時だからこそ、楽しめる場にしたい」と書かれていました。あっつ～い夜でしたが、家族づれ、中高生、年配の方など、多くの人でにぎわっていました。浴衣姿の子どもたちが楽しそうで、こちらも元気をもらいました。

（まゆまゅ）

募集

「子どもの声」ライター

【文字数】800 字前後
【原稿料】ちょびっと
【問合せ】TEL 24-5646

やんちき通信では、中高生～大学生ぐらいまでの若者ライターを募集中。今夢中になっていることや、何気なく日々思ったことなど、ブログみたいに書けば OK！原稿は 600 字前後。ちょびっと原稿料も出るよ★書いてみたい人は事務局まで電話！

■発行日：2018年7月25日（毎月1回発行）■発行責任者：米本美千恵
■発行元：特定非営利活動法人 呉こどもNPOセンターYYY 〒737-0051 呉市中央3丁目11-12PANビル3F
■連絡：0823-24-5646■WEB：http://kure-yyy.org